

訓子府町道駒里弥生線の道路損傷に関する調査メモ

調査日；2016/9/5（月）

調査者；宮森保紀（北見工業大学）

調査箇所；訓子府町 （43°45'32.69"N 143°42'6.31"E）

概要；

図1の①、③では町道の路肩が崩落していた。また、図1の②、④では、町道から畑に降りる通路が途中から流出していた。

町道は訓子府川の左岸を平行しており、図1の写真を撮影した近くには樋管がある。堤防や植生には河川側からの越水した痕跡は無い。したがって、大量の降雨によって路面上を流れた雨水が被災箇所から水路および畑地に流れ込む際に道路を損傷させたものと考えられる。水路や排水管の集水状況や樋門（樋管）からの排水状況など詳細な被災メカニズムは今後の検討が必要である。



図1 被災箇所全景（訓子府川堤防から撮影）



図2 被災箇所①



図3 被災箇所②



図4 被災箇所③



図5 被災箇所④

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 准教授 宮森保紀

eメール: miyamoya (at) mail.kitami-it.ac.jp